就労準備発

就労準備支援事業とは、すぐに就労することが困難な人を対象に、日常生活自立、社会生活自立、就労自立のための様々なプログラムを提供し、就労に向けたサポートをする事業です。さーくるでは火曜日と金曜日の週２回、グループワークを行っています。今年も様々なプログラムを実施しました。その中で人気のあったプログラムをご紹介します。

作業系プログラム

一般企業から委託された内職は、工賃が出るため、皆さんやる気が出たようです。手先が不器用で自信がないと話していた方も、他のメンバーと協力しながら楽しそうに作業していました。
社会福祉協議会のボランティアで、ペーパーフラワー作りやピンバッジの袋詰め作業も人気がありました。

内職はダイレクトメールの宛名貼りやカレンダー封入作業を行いました。

作成したお花は地区社協地域祭り等の飾りつけに使われました！

調　理　実　習

今年度から日常生活自立の一環として、毎月１回公民館の実習室をお借りして調理実習を行っています。料理が得意なメンバーが中心となって、普段１人では作らないメニューに取り組みました。食欲がなかったメンバーもついつい食べ過ぎてしまうほどおいしくできました。

講義系プログラム

ロールプレイを取り入れて練習することで、電話対応や面接等、緊張する場面に「慣れる」方法が人気でした。こうした練習は繰り返し行うことが重要ですので、今後も定期的に行う予定です。

ほかにも こんな活動をしました♪

赤い羽根ボランティア

船橋駅前で募金を呼びかけ、多くの方にご協力いただきました

シンギングボウル

音の重なる（倍音）振動にヒーリング効果が

［編集・発行］ 船橋市「保健と福祉の総合相談窓口さーくる」
（船橋市委託事業　社会福祉法人生活クラブ）
所在地：船橋市湊町２-８-１１　市役所別館１階
ＴＥＬ：０４７－４９５－７１１１　ＦＡＸ：０４７－４３５－７１００
E-mail：circle@kazenomura.jp
ホームページ：https://funabashi-circle.jp

さーくるＨＰ
QR コード

令和5年度 2号

広報さーくる

主な内容
・ふなばしウォーク
・地域連絡調整会議
・相談の現場から
・居場所プロジェクト
・就労準備発
ほか

地域づくりへフィールドワークを開催

厚生労働省の方をお招きして市内を歩いて学びを深めました

令和５年 11 月 16 日、厚生労働省地域福祉課地域共生社会推進室の犬丸智則（いぬまるとものり）支援推進官と鈴木菜々子（すずきななこ）係長を迎え、「第１回ふなばしウォーク！」と題したフィールドワークを行いました。

ご近所付き合いや、親戚同士のつながりが薄くなった昨今、“地域づくり”が声高に叫ばれています。さーくるでも地域づくりは議論に上がります。しかし、地域づくりの前に、「私たちはこの船橋を知っているのか？」「地域ごとの風土、人、社会資源を知っているのか？」そんな自問がありました。

船橋駅周辺の白地図。
これが３つに分かれます！

ちょうどその折、厚生労働省の犬丸氏との参加支援・地域づくりについての勉強会がありました。なんと犬丸氏はフィールドワークの達人。街を歩く時のコツ、人と人をつなげるコツ、いろんなヒントをもらい、「私たちも船橋を歩いてみたい」という機運が高まったのです。

当日の参加者は、船橋市の福祉政策課、地域福祉課から数名ずつ、船橋市社会福祉協議会から１名、さーくるの職員。スーパーバイザーとして厚生労働省の犬丸氏、鈴木氏にもご参加いただきました。

グループ発表の様子。各グループ面白いものをたくさん見つけました。

船橋駅前周辺、船橋大神宮周辺、港方面、の３つのエリアにグループを分けて 40 分ほど歩いたのち、市役所に戻り、グループワークを行いました。グループワークでは、白地図に自分たちが見つけたものを書き込み、気づいたことや学んだことを発表しました。あえて街歩きのルールは設けなかったこともあり、お店の人に積極的に話しかけてコミュニケーションを図ったグループ、船橋の歴史と文化を感じ取ったグループ、新しい社会資源の情報をたくさん見つけてきたグループなど、様々な発見や学びがあったようです。

共通していたのが、「当然のように知っていたはずの船橋駅周辺ですら、知らないことが多かった」というものでした。参加支援や地域づくりについて議論を交わすことも重要ですが、「まずは歩いて、自分の目で船橋を見る」ことの大切さを実感しました。

フィールドワークをしたら即、地域づくりにつながるわけではありませんが、地域のことを知らなければ、地域づくりのスタートラインにも立てない、それを肌で学べた気がします。

後日談ですが、ある相談員が市内の会議に出席しましたが、ふなばしウォークの余韻が残る中、アンテナが冴えわたりあっちをキョロキョロ、会議に遅刻しそうになったとか、ならなかったとか。

日々時間に追われながら業務にあたっている中、フィールドワークだけに時間を割くのは正直難しいですが、今回のふなばしウォークがきっかけとなり、街を見る目、風土や文化を感じ取るアンテナが一人ひとりの相談員に芽生えるといいなと感じた体験でした。

商店街でも地域に根差した様々な取り組みが！

令和５年度地域連絡調整会議を開催しました

「参加支援」をテーマに意見交換

令和６年１月24日、船橋市中央公民館講堂で「令和５年度地域連絡調整会議」を開催しました。今年度から、さーくるでは、重層的支援体制整備事業の「相談支援」と「参加支援」の事業を受託しています。今回の会議は、「参加支援」について「発見してつなげよう・つながろう」をテーマに開催しました。

約60人の方々にご参加いただきました。

始めに、重層的支援体制整備事業がどういう事業なのか、船橋市福祉政策課より説明を行い、その後、さーくるの事業報告と「参加支援」を利用した方の事例報告を行いました。

今年度の「参加支援」は、さーくるが行っている「就労準備支援事業」を活用しています。その中で、社会福祉協議会のボランティア活動に参加することもあるため、日ごろから連携している船橋市社会福祉協議会の辻仁美（つじひとみ）氏をお招きして、社会福祉協議会が行っているボランティア活動や、さーくるの相談者の方々が活動している状況などについてお話いただきました。

後半は、参加者が地域ごとに分かれてグループワークを行いました。グループワークでは、用意した事例について、「あなたなら何ができますか？」というテーマに沿って、意見交換をしていただきました。発表では、地域ごとに受けられるサービスについて意見交換したグループや、「まずは困っている人と仲良くなって、話せる関係をつくる」ということで意見がまとまったグループなど、専門職だけでは思いつかないような意見も聞くことができました。

重層的支援体制整備事業は、地域の課題を「我がこと」として地域住民と行政が一緒に考える、そのことが地域の活性化につながっていくことを目指している制度です。今回のグループワークも、課題について地域ごとに考えてみるという点で、重層的支援体制整備事業のひとつだと感じました。

研修報告

第10回生活困窮者自立支援全国研究交流大会に参加しました

令和５年11月11・12日、一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワークの主催で、札幌市内で開かれた第10回生活困窮者自立支援全国研究交流大会に参加しました。

「地域おこし」をテーマにしたシンポジウムが行われました。

研修の中では、「重なり合う支援で暮らしづくり・地域おこし」をテーマにしたシンポジウムが印象に残りました。孤立する母親や、心身が弱ってしまった人たち、高齢者などの支援を地域おこしにつなげた経験が話されました。

北海道の上士幌町のケースでは、高齢者にも子育て世代にも優しい地域づくりについて報告されました。まず、母親がホッとできる居場所を作り、気軽に雑談をしたり、産前産後の母親の孤立化を防ぐ居場所作りを行っていました。その隣では、多世代交流として高齢者向けの体操教室を実施しており、自然に子供・母親・高齢者が交流できるような仕組みが作られていました。顔なじみが増えてきた段階で、赤ちゃんと関わりたい高齢者を募集し、スタッフと一緒に赤ちゃんを見守る居場所が作られたとのことです。母親は支援されたいわけではなく、ただ子育てを楽しみたい、社会や地域と繋がり、誰かの役に立ちたい、といった相互のニーズがこのような仕組みを完成させたのだと思います。

まったく新たな取り組みを行うのではなく、各機関が手を取り合って、今できている事、やっている事を持ち寄り、皆で考えをかけ合わせていくことが大事だと感じました。

相談の現場から

「おかえり」と受け入れられる社会へ

ー再犯せずに暮らせるための支援ー

さーくるでは、罪を犯してしまった方の生活支援に取り組んでいます。

全国の刑法犯認知件数は平成14年をピークに減少し続けている一方で、千葉県の再犯者の刑法犯検挙者に占める割合は５割ほどで推移しており、千葉県の刑務所入所者も５割以上が再犯者であるなど、一度罪を犯した人がその後再び罪を犯す割合が高い状況です。

こうした人の中には、出所後に住むところやお金がない、頼れる親族がいない、相談できる人が誰もいない、周りの人が気付かなかった生きづらさを抱えているなど、本人の努力だけでは解決が難しい一方で、適切な支援があれば再犯せずに生活を送ることができる方もいると考えられることから、千葉県では令和４年１月に再犯防止推進計画を策定し、「社会復帰に向けた包括的支援体制の整備」などを重点課題として取り組みを進めています。

この計画の一環として、福祉関係機関の職員が刑務所などの矯正施設に出向き、支援を希望する方が出所する前から支援を開始することで、出所後に切れ目なく支援を行う事業を行っており、さーくるでもこの取り組みに参画しています。

東京矯正管区内の矯正施設から県への依頼に基づき、船橋市への帰住を希望する方に会いに行き、これまでの経緯や生活上の課題、出所後にどのような生活をしたいかといった希望を聞き取り、出所後の生活の場所や生活費の確保、必要な福祉サービスの調整などを行います。出所後も行政窓口での手続きの支援や定期的な訪問、各関係機関との連絡調整などを行い、再び罪を犯さずに生活できるよう支援を行っています。

今年度は船橋市でも独自の再犯防止推進計画の策定に向けた作業を行っており、今後は地域の皆様との連携を深め、よりよい支援を行えるように取り組んでいきます。

居場所プロジェクト

～様々なプログラムでコミュニケーションのきっかけに～

さーくるには社会との関わりがなかなか作りづらい方や、居場所がなくて孤立している方が多く相談に来られます。そのような方々が社会との関わりを持つきっかけとして、職員有志で“居場所プロジェクト”を実施しています。

野菜の収穫体験を開催しました

昨年11月は、地元の農家さんのご協力で野菜の収穫体験を開催しました。人参、かぶ、小松菜など、旬の野菜を収穫し、出荷用の袋詰めまでお手伝いしました。皆さん貴重な体験をさせていただき、楽しめたと思います。帰りは農家さんのご厚意で袋いっぱいの野菜をいただきました。

12月は中央公民館の調理室をお借りして、クリスマス会と称してたこ焼きパーティーを開催しました。タコではない変わり種も織り交ぜて、参加者の皆さんはアツアツのタコ焼きを頬張りながら楽しくクリスマスを過ごせました。

たこ焼きでクリスマス会

１月はゲーム交流会を開催しました。カードゲームを通して知らない者どうしが交流することでコミュニケーションに自信がつくきっかけになれたと思います。

居場所プロジェクトの企画でひきこもっていた方が野菜収穫に参加したり、他人と関わるのが苦手な方が趣味をきっかけに他の参加者と話が盛り上がっている様子を見て、このプロジェクトを続ける意義を感じました。今後も企画する予定なので参加希望やご質問などお気軽にお問い合わせください。